

◆ もう一つの「藤高クオリティ」 ◆

ずっと忘れ得ない光景がある。ある高校に勤務していた頃、春先の柔らかい光が校舎の階段付近を映し出す。副技師（学校用務員さん）のSさんが、チンダル現象(?)でホコリが浮かび上がる中、マスクを着け、その階段を懸命に箒で掃いておられた。（こういう言い方は大変不遜だけれど）申し訳なくなり、私も箒を持ってご一緒した。



思い起こせば、勤務した全ての学校で学校用務員さんには大変お世話になってきた。学校の敷地は大変広く、また校舎は雨漏り等、緊急の対応に迫られる場面も多い。落葉の季節は、その処理も大変である。本校は2年後に創立50年を迎えるが、それだけメンテナンスを要する箇所が積み上がっていく。上に記したような事例だけではなく、学校用務員さんのお仕事は多岐にわたる。

本校でも、4名の学校用務員さんには大変お世話になっている。まだ5ヶ月のお付き合いだけれど、赴任当初からその一所懸命さを感じている。4月の当初、校長室の洗面排水が思わしくなかった際も、すぐにIさん、Oさんが朝から懸命に対応してくださった。Sさんには「この夏の酷暑は大変でしょう」という優しい言葉とともに、冷たいそしてとてもおいしいお茶をいただいている。そして、Kさんは、厳しい日差しの中、中庭をはじめ広い校舎の雑草を処理してくださっている。少しでも、学校の環境を良くしようと黙々と頑張ってくださっている。本当に、日々頭の下がる思いです。

生徒の皆さん。皆さんはいろいろな方に支えられて、部活動を含めた日々の学校生活が継続できていることを忘れてはなりません。そして、その皆さんが日々どのような思いでお仕事にあたられているのか、「想像力」を働かせて欲しい。そうすると、次にやるべきことが見えてくる。もちろん感謝の気持ちも忘れずに…。

ようやく暑さが一段落してきたようだが、皆さんは私より先輩である。健康に留意され、これからも「藤高クオリティ」の向上にお力添えをいただきたい。いつもありがとうございます。